

八代市人口ビジョン(素案)【概要版】

I 人口の現状

2014年の人口128,700人

①自然増減(出生と死亡) ▲727人(2013年度) 出生1,020人 死亡1,747人
◆合計特殊出生率 1.65 (2008-2012年) ※人口置換水準2.07

◇市民の希望出生率 2.00 (H27市民アンケート)

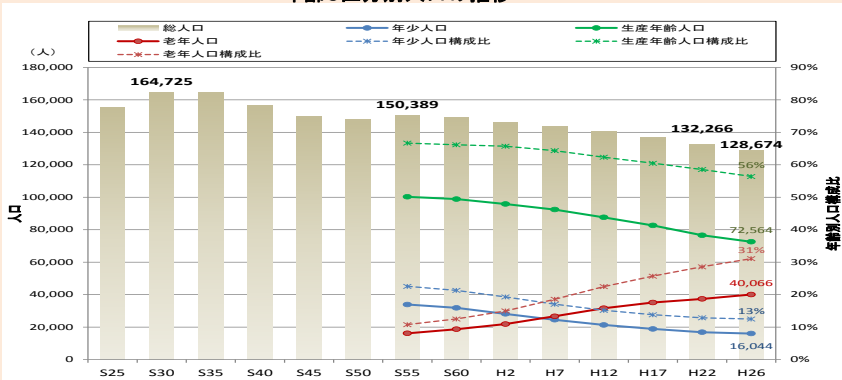
②社会増減(転入と転出) ▲45人(2013年度) 転入3,667人 転出3,712人

◆15歳から24歳の転出超過 421人※H25・外国人を含まない

◇卒業後の転出を見込んでいる学生のうち、『できれば八代市に住み続けたい』と考える学生の割合 **男性45.8%、女性37.0%** (H27学生アンケート)

◇卒業後の転出を見込んでいる学生のうち、『将来八代市に戻りたい』と考える学生の割合 **男性63.3%、女性55.8%** (H27学生アンケート)

年齢3区分別人口の推移



II 人口の将来展望

2040年の人口102,300人

社人研※推計によると、2040年の人口は9.3万人まで減少 (2060年には6.8万人)

※国立社会保障・人口問題研究所

【人口減少の影響】

- ◆労働力不足による生産規模や地域経済規模の縮小
- ◆担い手不足による耕作放棄地等の増加、ものづくりの技術・技能継承の困難
- ◆利用者減少による社会サービスの維持困難、一人当たり社会保障費の負担増
- ◆地域の担い手不足によるコミュニティ低下、地域の文化・行事の継承の困難

【人口減少で不安に思うこと】 (H27市民アンケートの上位)

- ◆子どもの数が少なくなる 55.9% ◆まちの賑わい(活気)がなくなる 43.3%
- ◆空き家が増え、防犯・防災などの問題が発生 37.0%
- ◆店舗などの数が減り不便になる 28.1%
- ◆担い手不足により農林水産業が衰退する 23.6%

目指すべき将来の方向

1 誰もが希望をもって暮らせる社会づくり

- ◇結婚・出産・子育てがしやすい環境づくり
- ◇誰もが生涯にわたり希望をもって暮らせる社会づくり

2 人をひきつけ、人が集まる活気づくり

- ◇若者の流出抑制やUターン希望者の支援、市外からの移住定住の促進
- ◇観光・文化・スポーツなど国内外との交流促進による活気づくり

3 魅力ある産業と雇用の創出による活気づくり

- ◇新たな産業の創出や企業誘致、人材確保や技術開発など多面的な産業支援

4 発展を支えるまちづくり

- ◇地域に誇りを持ち、安心・安全に暮らし続けることができる地域づくり

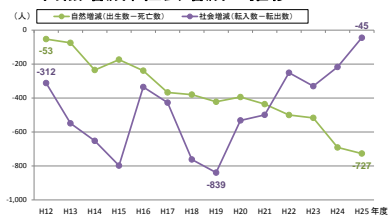
【将来展望の仮定】

- ◇合計特殊出生率 2030年 2.00 (市民の希望実現)
2040年 2.07 (人口置換水準)
- ◇若者の定住希望が2030年までに実現
15~24歳の転出数が**男性45.8%、女性37.0%減少**
- ◇若者のUターン希望が将来的に実現
15~24歳の転出者の**男性63.3%、女性55.8%**が将来転入

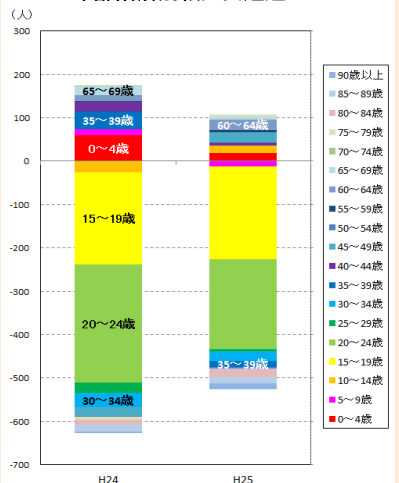
【将来展望】

- ◇2040年の人口 102,300人
- ◇2060年の人口 86,900人

自然増減、社会増減の推移



年齢階層別転入超過



出生数と合計特殊出生率の推移

